

## <手指の変形性関節症>

変形性関節症と言われるとよく膝を想像されるかたが多いと思いますが、手指にも変形性関節症があります。

手指の変形性関節症は長い間無理な作業をしていたり、加齢や手指の使い過ぎなどにより発症するといわれており、発症する部位により呼び名が違います。

第一関節に起こればヘバーデン結節、第二関節に起こればブシャール結節、親指の付け根に起こるものを槌指（つちゆび）関節症と呼ばれます。ヘバーデン、ブシャールの症状はほとんど同じで、初期には物をつかんだりする時に指の関節に痛みが現れ、また軟骨のすり減りが進むと指の関節の周囲に骨の棘ができ、関節が太く見えるようになり指を真っ直ぐ伸ばせなくなる事があります。

槌指関節症は症状が進行すると親指が開くにくくなり、関節から骨が外れる状態（亜脱臼）を起こし、関節が横に飛び出した変形をします。親指を動かすと痛みが出るため、物をつまむ動作やタオルを絞る、ドアノブを回す事が痛みから困難になります。

治療法は様々でレーザー治療や温熱療法、それでも痛みや炎症が治まらないようであれば、関節に痛み止めの注射をする事もあります。手指の変形性関節症の診断には、エックス線検査が必要となり関節リウマチや痛風など他の病気と鑑別するために血液検査などを行います。

自分で判断せず気になる事があったら、一度診察へ